

# 網張ビジターセンター ニュースレター



Amihari  
visitor center

Vol.84  
2019.5

イヌコリヤナギも美味しいなあ～

どちらが主役？

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori \* 網張の森の生き物たち \* amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

## イヌコリヤナギを吸蜜する「ルリシジミ」

野外にいとジワリと汗をかくような眩しい日差しの中、小刻みに激しく飛び回るルリシジミに出会いました。太陽光を浴びた姿はその名の通り“瑠璃色”に輝く宝石のようでした。瞬きもせず必死に目で追いかけているとようやくイヌコリヤナギの花序に止まり、休む間もなく口吻をせわしなく動かしていました。翅はしっかり閉じられていて表の瑠璃色はおあずけ。ヤナギは地味な花の様子から風媒花のようにも見えますが、虫たちに花粉を運んでもらう代わりに蜜をごちそうする虫媒花。ルリシジミの口吻にはとところどころに花粉がくっついて、「蜜をあげたんだからしっかり花粉を運んでもらいますよ…」ヤナギのつぶやきが聞こえてきそうでした。チョウは蜜がほしいしヤナギは花粉を運んでもらいたい…。最初はチョウが主役のようにも見えましたが、蜜をエサにチョウを引き寄せているヤナギもまた主役に思えてきました。見慣れた光景の中に長らく続いている植物と昆虫の駆け引きを垣間見た出会いとなりました。

“What is Rurishijimi?”

「瑠璃色のシジミチョウ」

シジミチョウ科

前翅長：12～19mm 前後

分布：北海道～九州

平地から山地の樹林や農地、河川、公園など食草

(マメ科、ミズキ科、タデ科など)のある様々な環境で見られる一般的な種類。

似た仲間で年に1回しか発生しない「スギタニルリシジミ」もいる。

(参考図書：「フィールドガイド 日本のおわり」)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



色のさめた落ち葉と新緑が静かに対話をする森をゆく

# 網張から見える 山ノート

17ページ目 男助山・女助山 Part2

お すけやま め すけやま  
男助山・女助山

標高：758.4m・609.5m

位置（網張VCから）：南

登山適期：通年（特に春先と紅葉の秋）

特色：奥羽山脈の一端で火山性の隆起や浸食を繰り返して現在の形に。女助山の標高は三角点の地点が採用されているが、本当の山頂は三角点の手前にある620mのピークである。

残雪がほぼ姿を消した4月の下旬、しずくいし観光協会の主催行事で男助山・女助山の両山を登る行事が催されました。その時歩いた女助山西側から山頂までのルートは、昨年の秋に雫石町山岳協会のメンバーによって整備された新しい道です。同会に所属し登山ガイドでもある三浦さんと米澤さんに、整備に至った経緯を伺いました。「これまで北側から登る道もあるにはあったが、もっと登りやすいコースがほしいという流れになった。」「山の地主からも、登山者が増えると田畑を荒らすイノシシの抑止になると歓迎されている。」まだできて間もないので、登山道の周知もこれからですね？「今もネット経由で男助山とセットで登る人は少数ながらもいる。」「町からも幾らか補助を受けているので、手作りの標識などをつけて利便性を高めたい。」「登山口にも複数台駐車できるスペースを確保する。いずれ北側ルートも再整備し周遊できるようにしたいね。」

筆者も取材で初めて女助山に登った際、下の南畑川からアカショウビンの鳴き声が聞こえる嬉しいサプライズが！派手さはありませんが、雫石の奥深さを味わえる山々だと思います。



正面が女助山、登山口は橋を渡り桑原の集落を右に進んだ先だ

かつて炭焼きや銅山として利用された男助山



銅山として利用されたのは戦時下の事。当時の日本は物資不足を補うために金属を回収する法律も制定され、各地の釣鐘や銅像が軍需品に姿を変えた。ここで産出された銅は今いずこ？

鳴き声

ピーリーリー  
ポイヒーピピ  
ピールリピールリ  
ジュジュ



アミハリ・バーズ Vol. 27

## オオルリ

科名：ヒタキ科  
全長：16.5 cm  
生態：夏鳥  
分布：九州以北

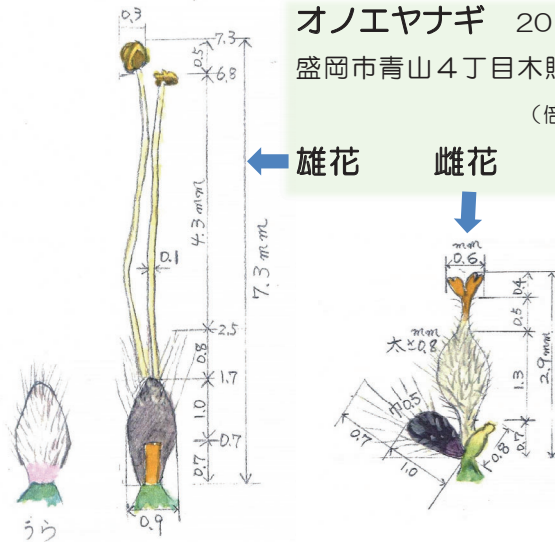


K. Hirono  
'19

網張の森には散策路が設けられており、湯ノ沢には2つのつり橋が架けられています。森とスキーゲレンデを結び湯ノ沢橋周辺では、毎年のようにオオルリがやってきて高い木のこすずで元気にさえずります。雄は鮮やかな瑠璃色。昔は「るり」や「るりてう」と呼ばれていましたが、江戸時代に「コルリ」と区別されるようになり今の名前になったとか。ちなみに瑠璃とは古代中国やインドで七宝の一つとされた宝石の事です。ヨーロッパでもラピスラズリと呼ばれ、絵画の顔料としても特別な色でした。本物の瑠璃には縁がありませんが、このオオルリやルリシジミ・ルリタテハなどを通して、いつの時代も人の心をつかんでほさない色彩を愛でることができます。

# 喜作先生の自然スケッチ オノエヤナギほか2種の見分け方

**オノエヤナギ** 2015.4.10  
盛岡市青山4丁目木賊川土手  
(倍率8倍)

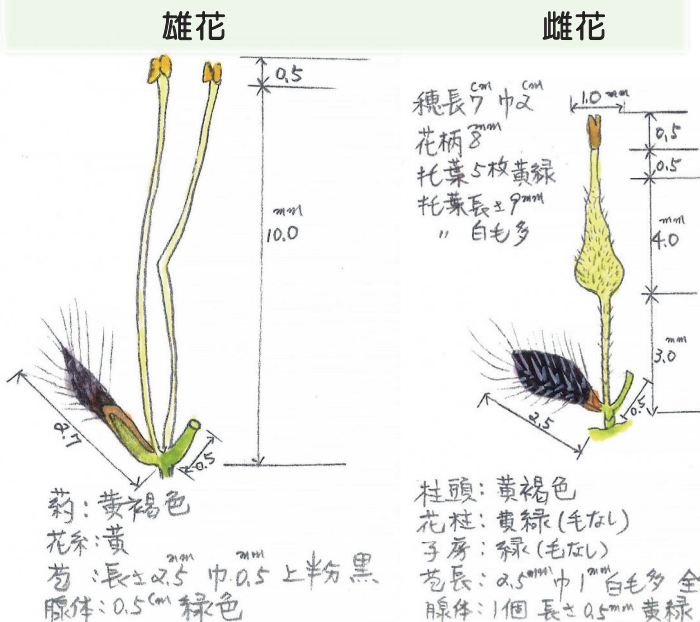


ヤナギ科ヤナギ属は日本では37種※1)、岩手県内に生育するものは26種(全国の70%)※2)となっています。ヤナギは岩手県に無いケショウヤナギを除いて全て虫媒花で腺体から蜜を出すようです。ヤナギ類の分類を難しくしているのは、花の咲く時は葉が無く、葉が伸びきる時には同様に重要な雄花が散ってしまっていることです。そのうえ雌雄異株です。私は土手のヤナギにペンキで印をつけて、それぞれの時期に観察しています。ここで網張に天然生育する3種を覚えることをきっかけに少しずつ増やしていき最終的に岩手の26種を理解してもらえたらと思います。ヤナギの分類には雌花はどれも似ているので雄花と葉が有効です。

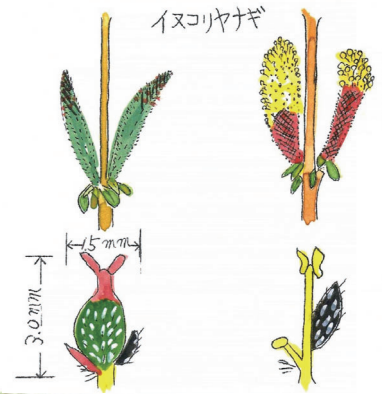
**1. オノエヤナギ** 尾上柳 川の土手に多くあります。葉は長くて狭い。①若い葉は1mmぐらい裏に巻いているのが一番の判別です。②葉裏の支脈が出張っています。よく似たカワヤナギはその支脈の出っ張りが無くペラーとしているので私はそれで区別しています。オノエヤナギの花糸(か)は2本、カワヤナギは1本です。

**2. ヤマネコヤナギ** 山猫柳 新潟県ではバッコヤナギ(花の時期に葉歯が無いので婆っこから)。今年の5月4日、50ccのバイクで網張ビジターセンターへ行く途中、鞍掛山駐車場手前、80m先からポツンポツンと白っぽい雄花が見られました。雄花は場所によっては200m先でも分かりますが雌花は50mぐらいまで近づかないと見つけられません。盛岡地方の554本のヤマネコヤナギでは雌木が65%、雄木が35%の比率で雌木が多かったにも関わらずです。雌花は白と緑と青を混ぜたような目立たない色です。葉は楕円形、厚くてやや大きく表面に横ジワが見られます。山麓の水はけの良い場所に生育します。この木に登っていたら足を掛けた枝がポキンと折れ2回ほど呼吸が出来なかったことがあります。

**ヤマネコヤナギ** 1996.4.29  
東北育種場正門前国道4号向い側  
(倍率5倍)



**イヌコリヤナギ** 1997.4.21  
滝沢市菓子  
(倍率5倍)



**3. イヌコリヤナギ** 犬行李柳  
日本で葉が対生のヤナギは3種※1)、岩手県内ではコリヤナギがI帯(太平洋側)、II帯(北上山地)、III帯(北上川流域)でイヌコリヤナギはI、II、IIIの他IV帯(奥羽山系)の全県に自生していますが、コリヤナギは網張にはありません。葉が対生であればほとんどがイヌコリヤナギですが、今年急に伸びた枝は互生になっています。これを擬対生性(ギタ他)と言います。このヤナギは枝が細く赤みを帯びていて、休耕田にいち早く現れます。(亀山記) ※1「ヤナギハンドブック」 ※2「岩手県植物誌」

## 「子どもたちを自然に帰してあげよう」

今年も網張ビジターセンターは「国立公園で楽しむ親子の自然体験」に全力で取り組みます!!  
子どもたちが自然とふれあう機会がどんどん減っています。網張ビジターセンターでは、登山体験や生きもの観察、炭火炊飯といった「国立公園で楽しむ親子の自然体験」のほかに、小学校の森林教室やクラフト体験といった子ども対象の活動に力を入れています。その分、一般の大人むけ行事が少なくなったという声も聞かれます。次の世代に大切な自然を引き継いでいく活動にどうかご理解をいただきたいと思います。(子ども向け活動のご希望問い合わせはビジターセンターまで)

# 「見慣れた自然も、おもしろい」

## 最近のビジターセンターの活動

網張の森で根開きができた  
メカニズムを皆で考えました

4月7日開催  
「根開きのブナの森で春を探そう」  
参加者数 16名(スタッフ含む)



5月11日開催  
「鞍掛山 春のお宝探しハイキング」  
参加者数 27名(スタッフ含む)



カタクリの花園の上をヒメ  
ギフチョウが舞いました

6月29日(土) 国立公園で楽しむ親子の自然体験「登山ガイドと大松倉山に登ろう」  
7月7日(日) 市民火山教室「滝/上の噴気現象と地熱利用」

参加者募集中!

岩手山周辺、国立公園の自然をテーマに自然に親しむ行事を開催します!

7月20日(土) 国立公園で楽しむ親子の自然体験「ナイトハイクと星空観察 ☆」

7月27日(土) 国立公園で楽しむ親子の自然体験「よるの森をのぞいてみよう! コウモリ調査体験と昆虫ライトトラップ」



各行事参加のお申し込みは直接  
網張ビジターセンターまで

展示コーナー 現在開催中の企画展 阿部ひろあき氏 (岩手山地区パークボランティア)



「野田海岸の夜」

### -写真展 三陸復興国立公園- 「三陸海岸自然探訪」

今回は、大震災前の貴重な植生景観も含め、特に印象的な風景を選び、2回に分けて展示します。

5月1日~31日 久慈市~旧田老町

6月1日~30日 宮古市~陸前高田市

この機会に三陸海岸を巡られ、ご自身の目で素晴らしい景観を探し、楽しまれることをお勧めします。

### モモンガのつぶやき

今月から始まったばかりの企画展、作品をじっくり見つめる一人の女性。田野畑村羅賀の弁天島を撮った「夜明けの海」を病床の御主人の部屋に飾りたいので譲ってほしいと言う。出展者の阿部さんに事情を話すとすぐに快諾して無償で提供してくれることに。企画展に込めた出展者の「三陸復興への思い」と病の御主人に対する奥様の優しい思いが交わりました。  
(たくちゃん)



### 十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 3月 1,116人 ◆ 4月 1,328人  
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 3月 -3.6℃ ◆ 4月 0.9℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉1-2(網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 夏期(4月から10月末まで) 休館日なし 9時~17時